

近畿圏の花とみどりを創出する環境適応性に優れた花き苗の開発

1 中核機関・研究総括者

和歌山県農林水産総合技術センター 島 浩二

2 研究期間

2006～2008 年度（ 3 年間）

3 研究目的

近畿は全国有数の花き苗生産地であり、その生産量は大阪花博以降、飛躍的な伸びを示してきた。しかしながら、小売り段階や定植後の不良環境における品質低下や生育不良の発生が消費者の購買意欲を減退させており、需要は停滞傾向にある。そこで、新たな需要の創出を図るため、出荷後の品質および生育の良好な環境適応性に優れた花き苗を開発し、その利用実証と評価を行なう。また、京阪神においてその条例化が進みつつある屋上緑化等への花き苗の適用を図る。

4 研究内容及び実施体制

- ① 出荷予措による環境ストレス下での品質保持技術の開発（奈良県農業総合センター、京都府農業総合研究所、兵庫県立農林水産技術総合センター、（独）近畿中国四国農業研究センター）

パンジー、ニチニチソウ等の主要花き苗品目を中心に、小売り段階における光・温度・養水分等の環境ストレスに対する適応性を高めるため、出荷予措による品質保持技術を開発する。

- ② 固化培地を軸とした生育保証を可能とする生産技術の開発（岡山大学、兵庫県立農林水産技術総合センター、和歌山県農林水産総合技術センター、みのる産業（株））

固化培地を用いた花き苗生産技術の構築を行うとともにその優位性を活かした定植後の活着・生育促進技術の開発を土壌組成の最適化等と組み合わせる。

- ③ 環境適応性付与苗の利用技術の開発と実証・評価（大阪府立食とみどりの総合技術センター、京都府農業総合研究所、和歌山県農林水産総合技術センター、東邦レオ（株））

上記において開発される環境適応性付与苗の家庭消費場面での利用実証と評価ならびに屋上等の都市緑化場面での利用技術の開発と実証・評価を行う。

5 目標とする成果

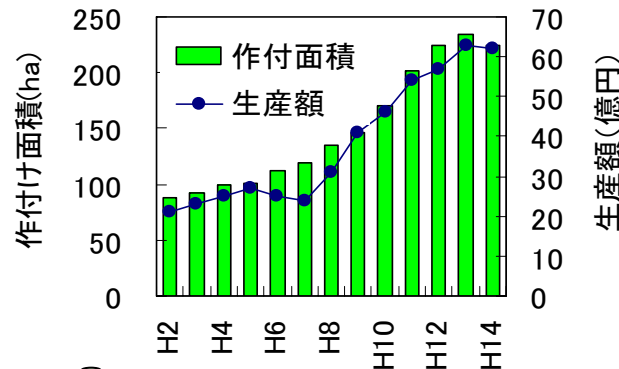
環境適応性に優れた花き苗の開発により、小売り段階での店持ち日数の延長と定植後の生育促進を可能にする。また、消費者に安心と信頼を与える花き苗の供給および花き苗の都市緑化への適用による新たな需要創出が図られることが期待され、近畿圏の花き苗産地の発展に貢献できる。

近畿圏の花とみどりを創出する環境適応性に優れた花き苗の開発

研究の背景と目的

近畿は花き苗生産の中心地であり、大阪花博以降、全国の花き苗生産を牽引してきたが

飛躍的な伸びを示してきた花き苗も停滞傾向



近畿における花壇苗生産の推移

この背景には

- ・店先での品質低下
- ・定植後の生育不良

の発生に伴う消費者の購買意欲の減退

花き苗では品質保持技術開発の遅れている

品質が良くて育てやすい花き苗
環境適応性に優れた花き苗の開発

研究シーズと研究内容

出荷予措による環境ストレス下での品質保持技術の開発

固化培地を軸とした生育保証を可能とする生産技術の開発

出荷予措



光・温度・養水分ストレス等

への適応性付与

固化培地



固化培地による苗生産と

これを軸とした活着・生育促進

根圏崩壊や根鉢形成を抑制



品質低下を軽減

環境適応性付与苗の利用技術の開発と実証・評価

家庭および都市緑化場面における利用実証・評価

期待される成果

重要視される都市緑化への花き苗の適用

消費者の花き苗に対する信頼回復
新たな利用用途の拡大

花き苗の需要創出と花き苗産地の発展(近畿から全国へ)